

## 第7回武蔵野市図書館運営委員会選書部会の記録

日 時 平成20年5月19日 午後6時30分  
場 所 中央図書館 4階会議室  
出席委員 毛利和弘委員 黒子恒夫委員 日高正登委員  
柏倉中央図書館課長補佐  
事務局出席職員 福島館長 村田吉祥寺図書館長 迫中央図書館課長補佐  
一ノ関管理係長 春日中央図書館図書担当係長 前田主任  
事務局説明員 武蔵野ブレイス(仮称)開設準備室 前田参事 田辺主任

### 議題及び内容

#### 主な議題内容

#### (1) 議題

##### 武蔵野市図書館の選書について

- ・武蔵野ブレイス(仮称)の選書について

なお、主な意見等は以下のとおり

(まず事務局より武蔵野ブレイス(仮称)の蔵書構成予定等について説明)

- ・(委員)2階フロアの特徴を確認したい。

児童書比率の高い西部図書館の特徴を引き継ぎ、2階には児童書と共に生活関連の本を配置。小学生位までの子どもと母親が同じフロアで楽しめるように考えている。

- ・(委員)2階部分は従来の分類にこだわらない配置にし、更に同じNDC分類の中でも地下1階と2階に分かれるものもあるとのことだが、利用者が探す際に混乱するのではないか。

検索機での場所の表示や、別置記号、見出し、背ラベルの色分け等により、わかりやすくなるよう工夫していきたい。

- ・(委員)武蔵野ブレイス(仮称)の特色にアート・環境に力を入れるとあるのに、7門を地下フロアに置いては目立たず、利用も少なくなるのではないか。

地下とはいってもオープンな階段があるため、1階フロアとあまり違和感がないだろうと考えている。地下2階は7門のアート系資料をまとめて置くことを考え、全体の収まりからこの位置とした。

- ・(委員)蔵書は環境やアートなどに特色を持たせるとのことだったが、実現できるのか。

武蔵野ブレイス(仮称)の蔵書数は西部図書館の1.75倍になる予定だが、どの門も平均的に1.75倍にするのではなく、特色を持たせたい部分に重点的に振り分

けることで対応していく。

・(委員) 雑誌は創刊・廃刊が激しく選択が難しいと思う。またネット上で既刊本が残され検索もできるようになり、紙保管の必要がないものも徐々に出てきている。選書の際に、保存期間・保管方法も調査研究をして欲しい。

・(委員) 雑誌・新聞の選書は図書館の特徴を出しやすいと思う。アート・環境分野の雑誌を充実させることで特徴付けが出来ると思う。

選定はあせらず、今後十分に吟味し決定したい。

・(委員) 視聴覚資料はどの程度置くのか。特にYA層は映像資料に興味が高く求めていると思う。学術的なものはぜひ置いていつでも見られるようにして欲しい。

貸出用の視聴覚資料については中央図書館が集中して収集する方向を考えている。学術的・芸術的に貴重な資料については今後検討したい。

・(委員) 西部図書館で行っている映画会は武蔵野プレイス(仮称)でも行っていくのか。

音量の大きい作品は除かれると思うが、4階での開催が可能かと思う。

・(委員) 1階カフェコーナーで資料を読み、汚されたらどうするのか。家庭の延長として捉えるなら、判断基準をはっきりさせルール作りが必要と思う。同時に「図書館は本を大切にしている」ということもアピールすべきだと思う。

汚された場合には貸出後の利用と同様に弁償して頂く。確かに汚されるリスクは増えるかもしれないが、カフェを置く狙いは図書館の持つ堅苦しい印象を気軽なものにする、あるいは今まで図書館を利用したことのない方が利用しやすくするためであり、お茶を飲みながら読書が出来るというコンセプトは守りたい。ただし、マナーに関しては周知徹底していきたい。

・(委員) 選書方法では既存の方法に捉われない目線で行ってほしい。中小出版社や非売品の中にも良いものがあるため、職員が実際に足を運んで探したり、国会図書館ホームページのリスト等を活用し寄贈依頼を考えたりしてはどうか。また展示目録の入手も考えて欲しい。その際には、美術館に出向いての現地購入も視野に入れるべきと思う。

次回 平成20年8月25日(月)午後6時30分から